

自ら育つ、共に育つ救急救命士を目指して

	都道府県名	茨城県
	所 属	稲敷広域消防本部 阿見消防署
	氏 名	椎名 猛美
	職名・階級	救急課長・消防司令
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	平成26年度 指導救命士養成研修 第1期 修了

【はじめに ～指導救命士としてのスタート～】

平成30年度から、茨城県において指導救命士認定が開始されました。当消防本部の指導救命士は、茨城県の指導救命士認定前の平成26年度から、消防本部救急課や各署所の救急救命士と協働し、平成29年度に策定された指導救命士運用要綱に基づき、様々な取り組みを行っています。

【救急救命士による救急隊員教育への取り組み】

平成25年度に総務省消防庁から発出された、「救急隊員の資格を有する職員の教育のあり方について」をもとに、同年に試行的実施を行いました。平成26年度はじめに、消防本部救急課と指導救命士および各署中堅救急救命士が、増加する救急件数や、その他の業務との調整のほか、効果の高い教育方法について模索・検討し、本格的実施に至っています。

【救急隊員研修会等、集合研修の取り組み】

救急隊員教育は、各署所において実施していますが、稲敷広域消防本部全体の取り組みとしては、集合研修を開催しています。これらの企画運営は各署の指導救命士が中心となって担当し、医療機関等の関係機関との連絡調整について消防本部救急課が受け持っています。

1 医師を講師に迎えての集合研修

現在までに、脳血管障害、循環器疾患など救急活動を遂行していく中で、傷病者の生命に直結する危険の高いものや、分娩・新生児蘇生といった、我々が苦手意識を持っている分野について、管内や近隣の医療機関の医師を招聘し、集合研修を開催しています。開催時間が平日午前中という、講義をいただく先生方は診察時間中

であり、スケジュール調整に苦慮することもあります。開催可能な日程を調整することで、医療機関と消防の相互理解が深まったと感じています。



循環器疾患の講義



分娩・新生児蘇生の実習

2 ブラインド型のシミュレーション訓練の開催

日常の救急活動と同様、各署所からの救急隊員と救急救命士が連携したシミュレーション訓練を実施しています。地域 MC 協議会の指導医師や看護師のみでなく、医療機関勤務の救急救命士の方々にも開催案内を行っています。これにより、年々見学に来られる医療機関スタッフの数が増え、院内では見る機会の少ない救急隊の現場活動をご覧いただいています。また、1つの活動終了ごとに検討会を実施し指導医師や指導救命士からの指導助言を得ることで、活動した救急隊のみでなく、見学参加した救急隊員から多くの質疑があり、救急隊員、救急救命士が共に学ぶ機会となっています。さらに企画運営側は、訓練終了後に参加者へのアンケートを実施し、次回以降の訓練内容や方法の充実を目指しています。



シミュレーション訓練風景



検討会での見学者からの質疑

3 ドクターヘリの有効活用に向けた事例検討会の開催

当消防本部は、茨城県ドクターヘリと隣県である千葉県ドクターヘリの運航範囲となっています。さらなる医療資源の有効活用を目指して、ドクターヘリ搭乗医師やフライトナースを招聘し、事例検討会を開催しています。また、近隣の消防本部へも開催案内を行い、救急隊のみでなく指揮隊など、ドクターヘリとの活動事例に従事するの方々からも、多数のご参加をいただいています。



ドクターヘリ事例発表



事例発表後の検討会

【学術研究への取り組み】

学術研究に関する意欲向上を目的とし、平成26年度に学術研究委員会を立ち上げ、各種学会等への積極的な発表を実施しています。業務多忙であり、発表を希望する救急救命士がいるのか不安でありましたが、当初から中堅・若手の救急救命士が多数委員会に参加し、現在では学術研究委員会での抄録選考を経て、各種学会等への応募となっています。今後も、発表内容やプレゼンテーション技法についてを指導救命士が中心となり、医師等から学ぶことで、学術研究に関して継続的な意欲向上に繋げていきたいと考えています。



全国救急隊員シンポジウムでの発表



発表者（若手からベテランまで）

【おわりに ～自ら育つ、共に育つために～】

古典の「徒然草」（兼好法師の随筆）のなかに、「ささいのことでも先達はあらまほしきことなり」（ちょっとしたことでも、案内者はあってほしいものである）とあります。救急業務においても指導救命士が先達となり、後進の案内役となることが求められている時代にきていると思います。そのためにも、指導救命士が「自ら育つ」ことを意識し、さらに将来の担い手となる若手、中堅救急救命士のみならず救急隊員への知識や技術の伝承を行なうことで、「共に育つ」ことに繋がるものと考えます。